

食品流通事業 事業戦略

2015年5月29日
富士電機株式会社
食品流通事業本部

■ 事業概要

■ 市場動向

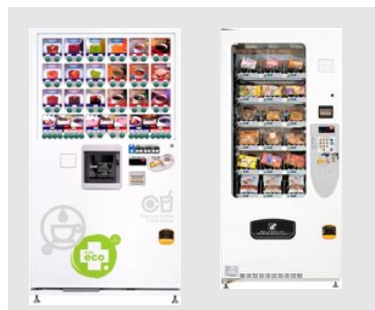
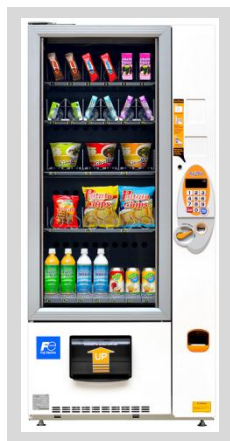
■ 事業計画

■ 重点施策

事業概要

自販機

【自販機】



- 缶・ペット自販機
- カップ自販機
- 食品・物品自販機
- 海外市場向け自販機
- 自動給茶機
- 清涼ディスペンサー

- ・自販機国内トップシェア
- ・省エネ技術を核とした環境対応

店舗流通

【店舗システム】



- 冷凍・冷蔵ショーケース
- コーヒーマシン
- 店舗エネルギーマネジメントシステム
- 自動釣銭機

【流通システム】



- 要冷・冷蔵設備
- 次世代保冷コンテナ（D-BOX）
- 植物工場プラント

- ・店舗内環境の最適化
- ・ITを融合したシステム制御

市場動向

国内の既存市場は減少傾向にある一方、海外市場は拡大傾向

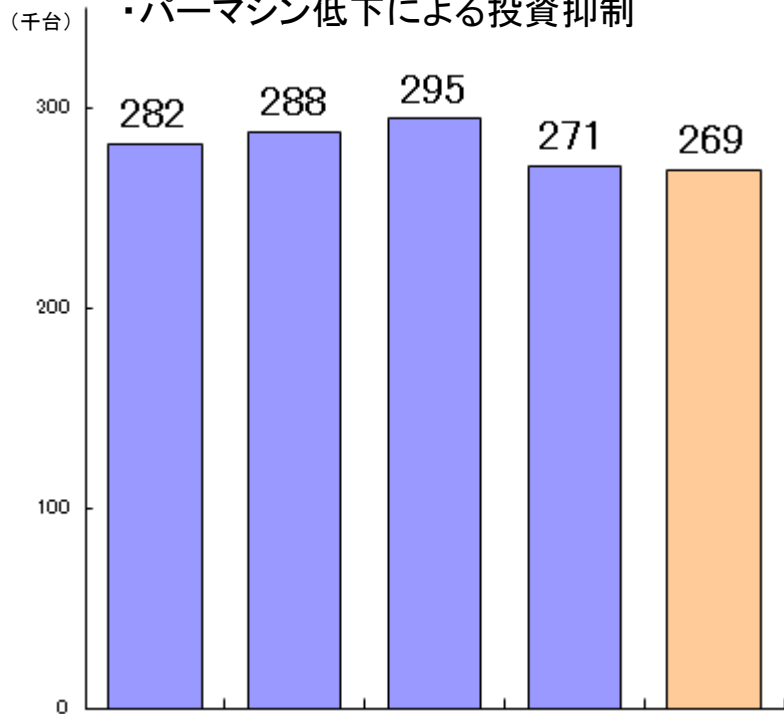
国内

国内市場の変化

(出荷台数)

※缶・ペット自販機

- ・顧客再編
- ・パーマシンの低下による投資抑制



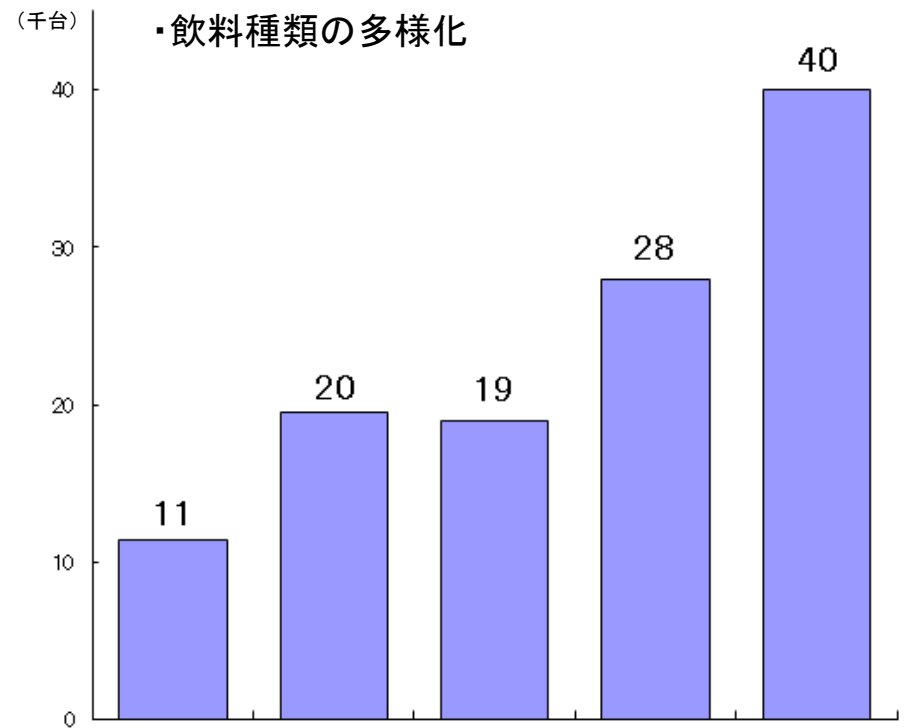
(出典：日本自動販売機工業会) (当社予測)

海外(中国)

中国市場の変化

(出荷台数)

- ・飲料メーカーの本格参入加速
- ・飲料種類の多様化



(当社予測)

マーケットの変化要因

- ・寡占化（スーパーマーケット、コンビニエンスストア）
- ・省人化
- ・差別化（PB、ポイントサービス、宅配サービスなど）
- ・海外展開（東南アジア、中国等）

店舗形態の多様化

当社の取り組み

- ・無人化店舗への対応（自販機）
- ・店舗システム商材の拡充（ショーケース、自動釣銭機など）



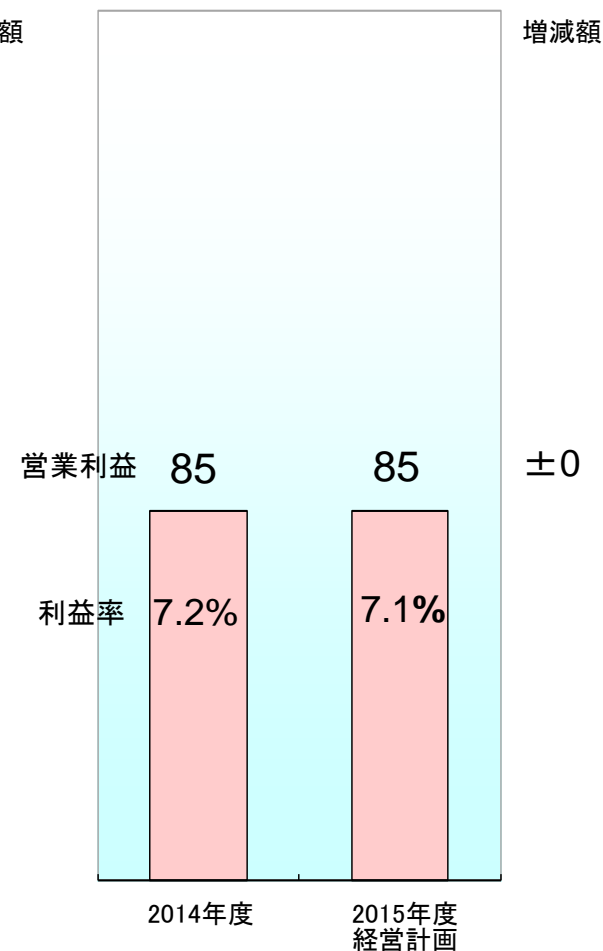
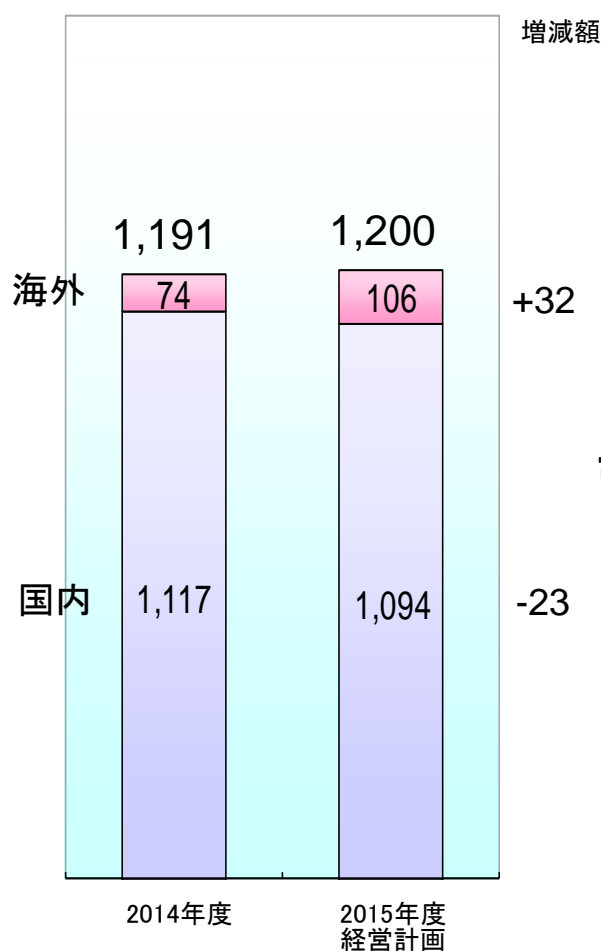
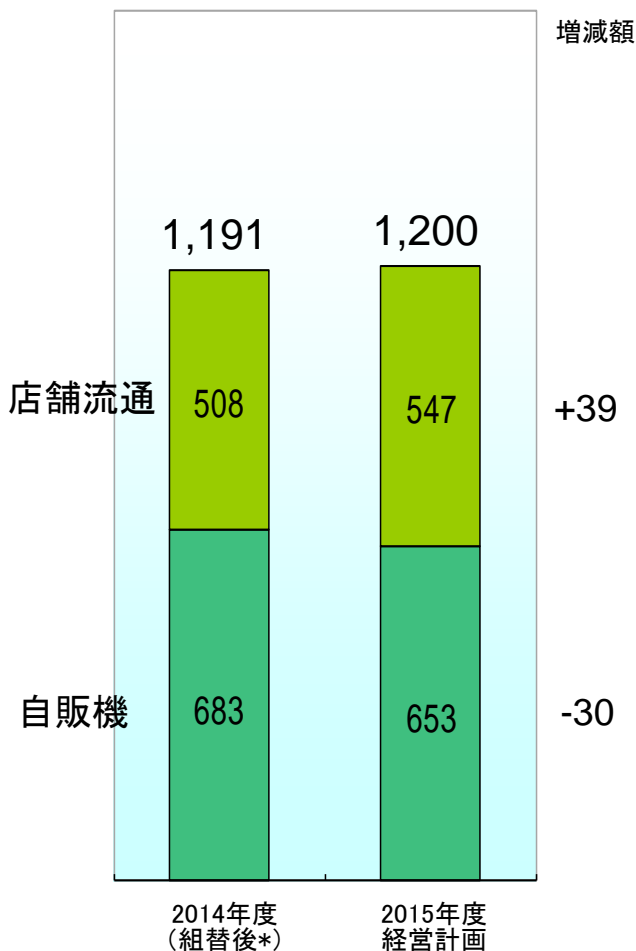
無人化店舗機材

事業計画

サブセグメント別売上高(億円)

国内・海外別売上高(億円)

営業利益・営業利益率(億円)



※2014年度実績は、2015年度における事業組替を反映し表示しています。
組替内容: 飲料メーカー向け以外の売上移管(自販機→店舗流通)

重点施策

海外での自販機事業拡大へリソースを集中

- 中国における事業体制強化
- アジアにおける事業体制強化
- 国内自販機は更なる原価低減の推進

- 製販分離による販売体制の強化・売上拡大
- 生産体制の強化
- 新商材の拡販
(グラスフロント機、カップ自販機、環境対応機等)



2015年4月、大連富士冰山
自動販売機販売社を設立

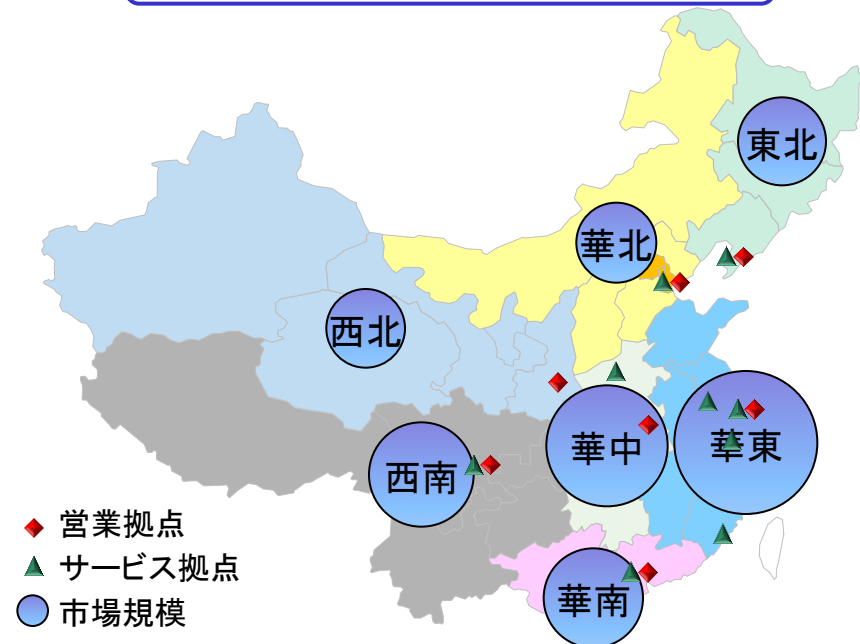


グラスフロント機
【飲料・食品・物品自販機】



【カップ自販機】

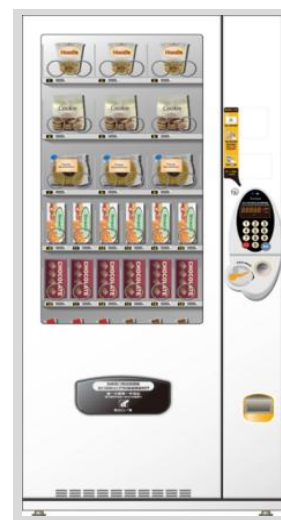
中国市場と拠点



- 現地オペレータ会社設立による市場拡大
- 現地飲料メーカーの自販機展開支援とオペレータ育成支援
- 新商材の拡販(グラスフロント機)



アジア市場の開拓に向け、富士電機マニュファクチャリング(タイランド)社にて自販機を製造



グラスフロント機
【飲料・食品・物品自販機】

新分野拡大に向けた取り組みの加速推進

- コンビニ業界向け店舗システム商材の拡充
 - 次世代ショーケースの開発
 - 冷熱技術及び自販機で培った技術を活用した商材開発
- “要冷物流まるごとビジネス” をベースに新事業を開拓・拡大
 - 植物工場向けビジネス
 - 次世代保冷コンテナ「D-BOX」

- ・植物工場トータルプランニング
- ・営農支援システム
- ・産地直送型D-BOX
- ・予冷・予措施設
- ・選果システム



産地

(植物工場、集出荷施設)

- ・要冷センターD-BOX
- ・冷蔵・冷凍設備
- ・エアカーテン



食品加工

(加工工場・要冷センター)

- ・冷凍・冷蔵ショーケース
- ・店舗D-BOX
- ・自動釣銭機
- ・各種自動販売機



店舗

(スマート店舗)

- ・配送センターD-BOX
- ・情報システム
(倉庫管理・輸送品質・
貨物追跡など)
- ・要冷施設
- ・仕分けシステム



要冷物流

(スマート流通)

自社のエンジニアリングにより、さまざまなシーン・温度帯に対応

要冷ピッキング用フローラック



ピッキングエリアに設置
(埋め込み)

超低温(-55℃)冷凍庫



低温物流センター



マテハン制御



トンネルフリーザー



冷却断熱技術の応用

クリーンルーム・建築技術の応用

IT制御

顧客ニーズに応じ機器・設備、プラント、ノウハウまでパッケージで提案

植物工場関連機器・設備

【例】農業プラントメーカー

植物工場プラント

【例】JA・農業法人(ノウハウ保有者)

植物工場プラント+ノウハウ

【例】新規参入企業(小売・製造業等)

エンジニアリング

サポート・サービス

冷熱技術



次世代保冷コンテナ



保冷库

情報・制御技術



環境制御システム



EMS



選果仕分システム

ExchangeUSE

決裁ツール

施設関連技術



電気設備



環境計測センサー



空調設備



エネルギー設備

栽培・運営ノウハウ

データベース

栽培データベース



栽培関連技術



運営ノウハウ

植物工場の経営課題を解決する複合環境制御システムを提供

植物工場の主要経営課題

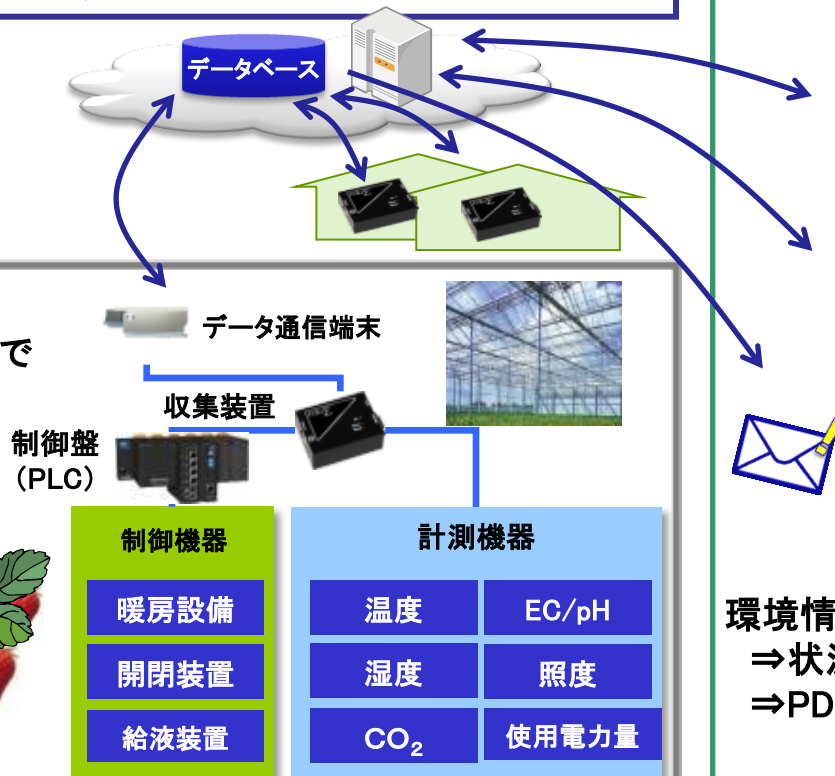
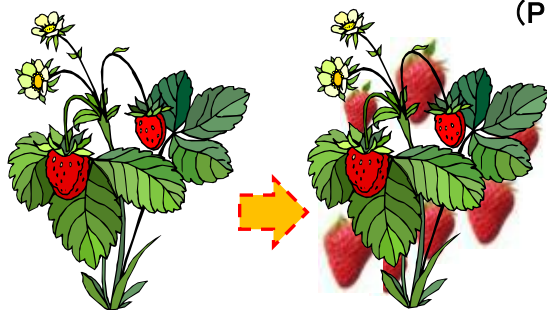
1. 売上・利益拡大 1株当たりの収量アップ
2. エネルギーコスト削減
3. 生・販・在・労務のコントロール

利用者



栽培施設

複合的に環境制御を行うことで
収量・品質を向上



環境情報、設備稼働状況の見える化
⇒ 状況や履歴を基にアクション
⇒ PDCAサイクルの推進

①太陽光利用型高設栽培温室

- ・2ha、軒高4m×2棟
- ・H26年に1棟2haを建設、
H28年に1棟2haを増設予定



②チップボイラー施設

- ・地場木材利用による木質チップ、ボイラー棟(77.76㎡)を整備
- ・ヒートポンプ、ガスボイラー、栽培用CO2タンクを併設



③集出荷施設・管理棟

- ・木造平屋建て(786.45㎡)
- ・選果場、冷蔵設備、荷捌所、
その他、環境制御等を行う
施設管理室や事務所を併設



④養液栽培設備(養液供給システム)

- ・温室内に溶液栽培施設を設置し、集出荷施設内の環境制御コンピューターで栽培環境を高度に制御



④養液栽培設備(高設栽培ベンチ)

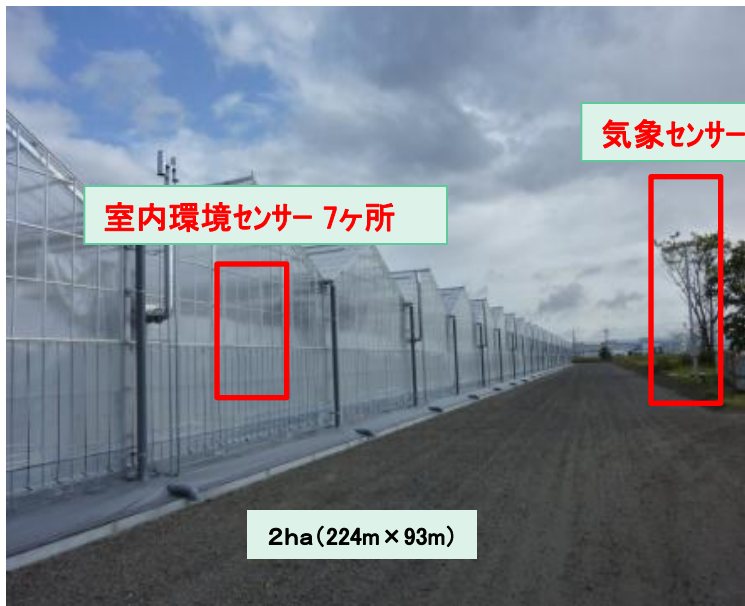
- ・作業性の高い高設栽培ベンチを設置し、温湯管温風ダクトにより効率の高い加温を実現
- ・スポットで養液、CO₂が効果的に施用可能



⑤完全人工光型育苗施設(15年度竣工予定)

- ・安定したイチゴ生産を行うために、ウイルスフリー苗を生産する完全人工光型育苗施設の設置を計画中
(写真はイメージ)





気象センサー

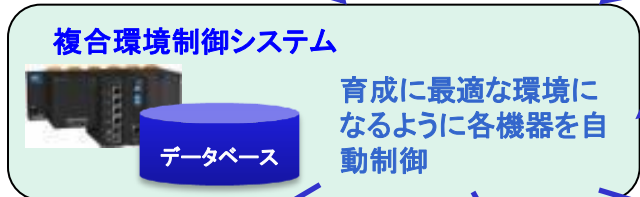


- ・風向、風速計
- ・温湿度計
- ・日射計
- ・感雨計
- ・降雪計

室内環境センサー × 7ヶ所



- ・温湿度計
- ・地温計
- ・日射計
- ・CO₂濃度計
- ・EC、pHセンサー



外出先でも
育成状態を管理

天窗、側窓



カーテン(遮光、保温)



循環扇、細霧冷房



補光設備(電球)



温風暖房器



CO₂(手前)、養液(奥)



ベンチ加温、冷却

融雪

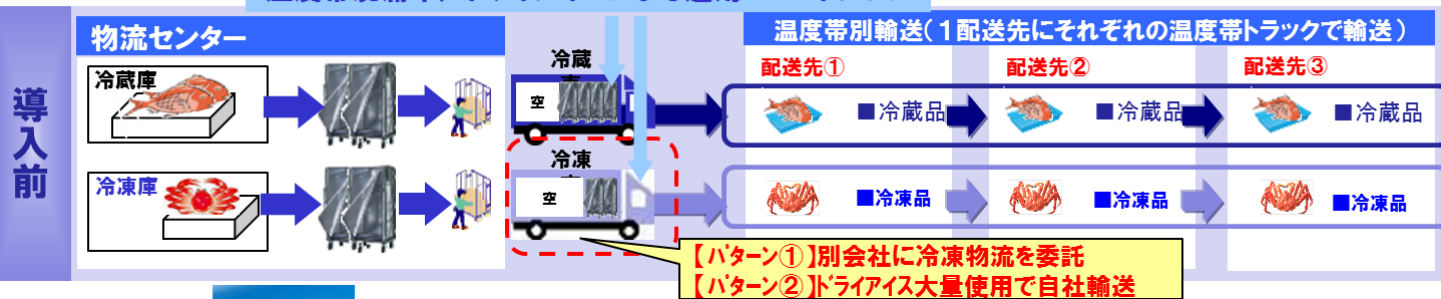


最適な環境で
・収量アップ
・品質向上

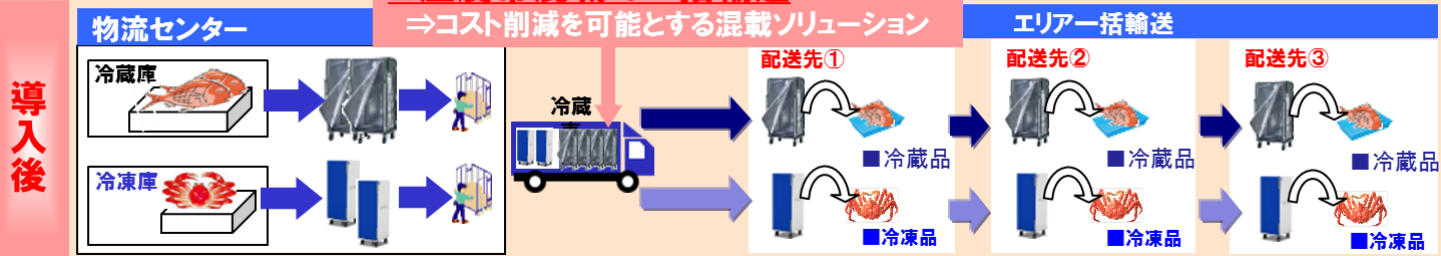
- システム販売とコンポーネント販売の拡大
- フロージン機導入による製品ラインアップの拡充／カスタマイズ対応
 - カスタマイズ可能な仕様(温度帯、重量、サイズなど)に応じた受注生産

フロージン機の概要

温度帯別庸車/ドライアイスによる運用→コストアップ



2 温度帯混載で一括輸送
⇒コスト削減を可能とする混載ソリューション



D-BOX(チルドタイプ)

急速冷却
ユニット



サイズカスタマイズ対応機
例) ハーフサイズD-BOX



温度帯カスタマイズ対応機
例) フロージンD-BOX -20℃以下

1. 本資料および本説明会に含まれる予想値および将来の見通しに関する記述・言明は、弊社が現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいております。その判断や仮定に内在する不確実性および事業運営や内外の状況変化により、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なる可能性があり、弊社は、将来予測に関するいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。
2. 本資料は、情報の提供を目的とするものであり、弊社の株式の売買を勧誘するものではありません。
3. 目的を問わず、本資料を無断で引用または複製することを禁じます。